

プロローグ…………… 5

アセスメントとケアの実際 01	医療機関でデブリードマンを行う患者の創傷ケア ／黒木さつき……………	6
アセスメントとケアの実際 02	胃瘻ボタン周囲にMDRPUが生じた患者の創傷ケア ／平良亮介……………	14
◆臨床でよく遭遇する創傷ケアの課題と対応		
	簡単なようで奥深いガーゼ固定、軟膏塗布のキホンのキ／黒木さつき……………	18
アセスメントとケアの実際 03	気管カニューレによりMDRPUが生じた患者の 創傷ケア／平良亮介……………	20
アセスメントとケアの実際 04	在宅でデブリードマンを行う患者の創傷ケア ／黒木さつき……………	26
アセスメントとケアの実際 05	がん性皮膚潰瘍を有する終末期高齢患者の創傷ケア ／祖父江正代……………	32
◆心に残るエピソード		
	がん終末期患者の褥瘡ケアで手も足も声も出なかった経験からの学び／祖父江正代……………	38
アセスメントとケアの実際 06	NPWT(陰圧閉鎖療法)を行う患者の創傷ケア ／黒木さつき……………	40
アセスメントとケアの実際 07	消化器術後離開創(手術部位感染)のある患者の 創傷管理／小島由希菜……………	48
アセスメントとケアの実際 08	開胸術後離開創(手術部位感染)のある患者の 創傷管理／小林智美……………	56
アセスメントとケアの実際 09	術後離開創(手術部位感染)プレート露出創部の 創傷管理／小林智美……………	60
◆データからみる創傷管理		
	SSIサーベイランスが示す在院日数短縮の必要性／黒木さつき……………	66
看護師がおさえておきたい 医師の視点		SSI(手術部位感染)／黒川正人…………… 68

アセスメントとケアの実際 10	消化器瘻孔をもつ患者のCSD(クローズドサクションドレナージ)による創傷ケア／小林智美	72
アセスメントとケアの実際 11	壊死性筋膜炎を発生した患者の創傷管理／平良亮介	78
看護師がおさえておきたい 医師の視点	壊死性軟部組織感染症(ガス壊疽、壊死性筋膜炎) ／黒川正人	84
アセスメントとケアの実際 12	静脈うっ滞性潰瘍を繰り返す患者の創傷ケア ／小島由希菜	90
看護師がおさえておきたい 医師の視点	静脈うっ滞性潰瘍／上村哲司	98
アセスメントとケアの実際 13	糖尿病性足潰瘍のある透析患者の創傷ケア／藤井渚	102
看護師がおさえておきたい 医師の視点	糖尿病性足潰瘍・足壊疽／上村哲司	112
◆いま一度、原点に立ち返る 創傷ケアと倫理的判断／小林智美		120
アセスメントとケアの実際 14	爪トラブルにより炎症性肉芽・潰瘍を生じた患者の 創傷ケア／橘優子	122
アセスメントとケアの実際 15	治療困難なCLTI(包括的高度慢性下肢虚血)患者の 創傷ケア／中屋貴子	132
看護師がおさえておきたい 医師の視点	CLTI(包括的高度慢性下肢虚血)／石原龍馬	140
◆みんなが主役のチームづくり チーム医療をもっと円滑にするために／橘優子		152

執筆者一覧

●監修・編著

小林 智美 社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師 / 臨床倫理認定士

●編著

黒木 さつき 稲沢市民病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師/医療リンパドレナージュセラピスト

平良 亮介 倉敷医療生活協同組合水島協同病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師

●執筆(掲載順)

黒木 さつき 前掲

平良 亮介 前掲

祖父江 正代 JA愛知厚生連江南厚生病院 がん看護専門看護師/皮膚・排泄ケア認定看護師

小島 由希菜 埼玉医科大学病院 皮膚・排泄ケア特定認定看護師

小林 智美 前掲

黒川 正人 熊本赤十字病院 形成外科

上村 哲司 純真学園大学 保健医療学部医療工学科 特任教授

藤井 渚 医療法人社団愛友会 蓮田一心会病院 診療看護師/皮膚・排泄ケア特定認定看護師

橘 優子 順天堂大学医学部附属順天堂医院 糖尿病看護特定認定看護師

中屋 貴子 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 皮膚・排泄ケア特定認定看護師

石原 龍馬 社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 循環器内科副部長

編集協力：重森 献(Crivelli)

カバー・本文デザイン：早瀬衣里子

本文イラスト：キヨムラ、日本グラフィックス

プロローグ：発刊に寄せて

臨床でよく行われる「テープの貼付」や「ガーゼの保護」は、誰でも簡単に実践できる処置方法です。だからこそ、質の向上を目指した創傷ケアの提供が望まれます。

先日、外科回診に同席した際に、腹部の正中創にガーゼを当て縦にテープを貼る看護師や、滲出液の少ない術後創に対して2枚八折りガーゼ5枚を半分に折り創部を保護する看護師に遭遇しました。テープの貼り方やガーゼの量などを指摘する筆者を前に、温厚な外科医たちから「伸びしろしかないね！」と、看護師へのなんとも優しいお言葉がありました。

私たち皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷の良し悪しだけを診ているわけではありません。テープの貼り方やガーゼの当て方など簡単な方法であっても、本当にその方法が患者にとってより最善な方法なのかを常に考え、創傷ケアのスペシャリストとしての信念をもち、日々質の高いケアを追求しています。本書では、私たち皮膚・排泄ケア認定看護師のこだわりの一部とその理由についてまとめました。

私たち皮膚・排泄ケア認定看護師のこだわりが創傷ケアに携わるすべての現場の看護師に受け継がれ、そして、少しでも多くの創傷ケアのノウハウや技術が継承され、ケアの提供につながることを願っています。

2026年7月

黒木 さつき

